

# いっぺいといっぱく Vol.48



市長は長久手をどんなまちにしたいか、そのために何に取り組もうとしているのか。その想いを市長の語り口でお伝えします。みなさんと語り合うように、一緒に未来の長久手のことを考えてみましょう。また、市HP【[によぜがもん](#)】もぜひご覧ください。  
[市HPのトップページから「[によぜがもん](#)」をクリック。]



## 皆さんの力を貸していただけませんか

行政は施策や事業を進めていく際、基本的な方針や内容をまとめた「基本計画」を策定しています。こうした計画には、これまでも「市民参加で策定、見直しを行っていく」といったことが書かれているのですが、公募等で市民を審議会の委員として加えたり、アンケートを実施したり、パブリックコメントで広く意見をくみ上げたりすることで市民参加は実現できても、これを更に進めた、市民が計画づくりに直接関わり、計画を作った後に市民自らが行動する「市民主体による計画づくり」までは実現できていません。

先月号のいっぺいといっぱくでも取り上げましたが、今、本市では次期総合計画「ながくて未来図」の策定に取り組んでいます。「ながくて未来図」は、長久手の未来を決める重要なまちづくりの指針となるため、市民主体による計画づくりに挑戦したいと考えています。そのため、一人でも多くの市民に参加していただき、意見を寄せてもらおうとしているのですが、多くの人に周知し、集まってもらうことはなかなか難しいものです。これまでにない規模の人数を集めるという新しいチャレンジに、どうしたら実現できるのか職員も頭を悩ませています。

本市は、土地区画整理事業等により人口増加が進む一方、地域のつながりが薄れてしまい、市民同士の支え合いが希薄な状態になってしまいました。今後、人口や税収が減少し、増える高齢者や地域の問題を行政だけでは支えきれなくなります。そうなる前に、市民同士が助け合う、地域が市民を支えるまちにしていく必要があります。今のままでは、市民がお互いを支え合うことはできません。30年、50年先を考えると、今から市民同士のつながりを作っていく努力を始めることが必要です。その手段の一つとして、大勢の方に計画づくりに参加していただき、互いに知り合い、市民同士でまちの将来について話し合う「ながくて未来図」の策定の取り組みは、絶好の機会と言えるでしょう。

また、「ながくて未来図」の策定のほか、まちづくりを進めていく上でのルールとなる、(仮称)自治基本条例の制定も進めています。これらについて皆さんに知っていただくため、各小学校区でワークショップを開催します(4・5ページ参照)。ぜひ皆さんに参加していただき、知り合い、語り合ってくださいと思います。未来の長久手のために、皆さんの力を貸していただけませんか。



ご近所で「いつもと違う」と気づいたときはお電話ください



**長久手市地域見守り安心ほっとライン**

**0561-63-5556**

24時間  
365日受付



### 表紙の写真もう一枚

育児講座「お父さんと一緒に遊ぼう!!」が行われました。当日は、お父さんとその子どもが講師の指導のもと、ふれ合い遊びなどを楽しみました。お父さんならではの迫力ある関わり方に子どもも笑顔、お父さんもニコニコと楽しいひと時を過ごしました。



スマートフォンで広報ながくてを持ち歩こう!

- App Store
- Google Play
- 「マチイロ」で検索
- ダウンロード

